

水都を寿ぐ【交響楽能】 2020 文化プログラムを目指して

出演者に伺う



佐々木洋三
関西・大阪21世紀協会
専務理事
(総合プロデューサー)



ギオルギ
バプアゼさん
関西フィルハーモニー
管弦楽団 指揮者



朝倉祥子さん
関西フィルハーモニー
管弦楽団 顧問



山本章弘さん
観世流能楽師シテ方



村上麻理絵さん
ダンサー、振付家



山口由里子さん
声優、女優



大西 毅さん
演出家

関西・大阪21世紀協会は、大阪城や周辺のホール、八軒家浜や道頓堀などを活用し、国内外のさまざまなアーティストに発表の場を提供する「大阪城フェスティバル構想」実現に向けて社会実験を続けてきた。

昨年11月21日には、大阪城を間近に望むNHK大阪ホールで、「水都を寿ぐ【交響楽能】East meets West」を上演。世界トップレベルのヴァイオリニスト・オーギュスタン・デュメイさんによる演奏、アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」などで有名な声優・山口由里子さんが語り部となり関西フィルハーモニー管弦楽団(指揮：ギオルギ・バプアゼさん)と能楽師・山本章弘さんのコラボによる新作能「水の輪」、さらにコンテンポラリーダンスの村上麻理絵さんと豪華出演陣を迎え、東西文化のコラボを実現。会場を埋める約1000人の来場者は感動の渦に包まれた。

今回、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「大阪版文化プログラム」を目指し、本公演について感じたことやアイデアを出演者の皆さまに伺った。

水都を寿ぐ【交響楽能】East meets West

企画・制作・主催：関西・大阪21世紀協会

協力：NHK大阪放送局

後援：関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪観光局



**能とクラシックの両方の良さを
知ってもらえるよう選曲しました。**

— 朝倉祥子さん

佐々木 交響楽と能のコラボレーションを上演するに際し、どのようなことを意識されましたか。

バブアゼ 能と共演するにあたって、私たちは能についてちゃんと理解し、オープニングからエンディングまで、しっかりと丁寧に準備してまとめ上げるよう意識しました。そうすることでコラボレーションとして上質な作品に仕上がari、お客様に西洋と和の文化の良さがしっかり伝わったと思います。私も日本独自の文化を間近で感じ、とても楽しかったです。「水の輪」というストーリーも分かりやすかったですね。

佐々木 能に合わせる楽曲をどのように選ばれたのですか？

朝倉 選曲にあたっては、お客様がクラシックを聴き慣れた方ばかりではないと考え、できるだけ分かりやすいものを選びました。能のスタイルに合わせて、音楽も派手になりすぎない弦楽器の音が合うと思い、グリーグのホルベルク組曲がぱっと脳裏に浮かびました。もちろんオーケストラの良さも知っていただきたいですから、今回のテーマである「水都」に合わせて、モルダウ(スメタナ『我が祖国』)よりも聴いてもらいたいと思いました。清々しい川の流れをイメージさせるもので、広く知られる名曲です。クラシックにも能にも縁遠い人でも、今回のコラボレーションで両方の良さに出会っていただけたのではないのでしょうか。

村上 私も「水都大阪」の水辺の情景を思い浮かべながら踊りました。ヨーロッパにも水の都と呼ばれるところがたくさんありますから、東と西の文化を「水」という共通のキーワードでつなぐことができればいいなと。また、「祈り」ということも意識しました。「祈り」には、自分の気持ちや周囲の空気を鎮め、新たな世界に向かう思いが込められています。私の出番は交響楽が終わって能がはじまる前でしたので、祈りによって場の空気を変え、新たな世界のはじまりを告げる役割だと考えたのです。

佐々木 本公演で山口さんは「東西文化の接着剤の役割」を語り部として果たされたわけですが、とくにどのようなことを意識されましたか。

山口 能で表現されている物語を敢えて言葉で説明するという、とても重要な役どころを担当させていただきました。緊張

しつつも平静を保ち、ゆっくりと、お客様の心に情景だけが浸透していくように、と心がけながら読ませていただきました。

**ヴァイオリンの音に合わせて登場する演者の
神妙な顔を見て、思わず笑いそうになった。**

— 山本章弘さん

山本 能は西洋音楽と違って、全員で音程を合わせるという概念がありません。楽器にしても調律という概念はなく、フルートと違って、能管(笛)は2つとして同じ音程のものは存在しません。能のお囃子が、譜面通りにキーを合わせて演奏するクラシックと合奏することは、もともと不可能なんですね。

大西 だから今回は合奏ではなく、ダンスや語りを交えて交互に上演する構成にしました。むしろ、能と交響楽の素晴らしさをそのままお伝えするには、その方が効果的です。とはいえ一緒に絡むシーンもご覧いただきかったですので、山本さんをお願いして水鳥の登場シーンで実現していただきました。

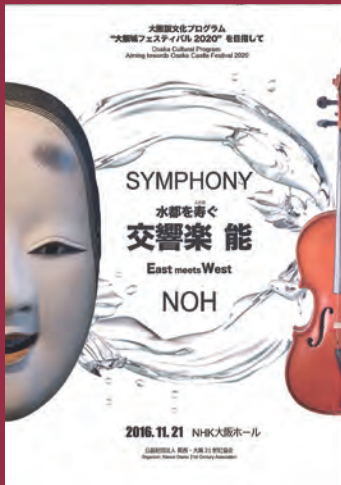
佐々木 コンサートマスターの独奏だけで能楽師が入場するシーンがありましたが、リハーサルの時に、お囃子方が肩を震わせて笑っていましたね。

大西 本来は能の笛の音で水鳥の精が登場するのですが、まさかのヴァイオリンだったのです。山本さんに快くお引き受けいただきました。

山本 じつはそれが難しかったです。普段は笛の音を合図に動くところを、ヴァイオリンにするとタイミングが分からなくなるのです。私は、演者が神妙な顔つきでヴァイオリンの音に注意を集中している姿を端で見て、思わず吹き出しそうになりました。能楽はもともと武家のたしなみでもありましたから、力士が土俵で肅々としているのと同じで、舞台上で笑顔を見せたり、お客様の拍手や声援に応じてはいけません。だから一生懸命に笑いをこらえていました。

囃子方は、真後ろから響くオーケストラと交互に演奏し「サウンドで最高だった」と喜んでいましたよ。

佐々木 能は、昔の言葉遣いで動きも少ないですから、見てもストーリーは分かりにくい。スクリーンで字幕を流すと舞台の演技に集中できません。そこで山口由里子さんに語り部になっていただきました。そうして観客にストーリーをご理解いただくことと併せ、和と洋の音と所作をじっくりご覧いただき、感じていただこうと思いました。



和英併記のプログラム

新作能「水の輪」あらすじ

昔、京都からなにわに向かう旅人が、山崎あたりで女性が漕ぐ川舟に乗せてもらう。女性は昔の淀川の美しいようすを語るが、なにわが近づくこと「今は水が汚れて入ることはできない」と嘆き姿を消す。旅人が呆然としていると、一羽の水鳥が「それは淀川に住んでいた水神様だ」と告げ、外国からの渡り鳥たちと一緒に川を掃除しはじめる。そうして川は再び美しさを取り戻す。



オーギュスタン・デュメイさんと
関西フィルハーモニー管弦楽団



**それぞれが見事に表現されていて、
あまりの美しさにドキドキしていました。**

— 山口由里子さん

山口 客席から観られなかったのが残念でなりませんが、能では美しく色鮮やかな水鳥たちの世界を、音楽では静かにまたはダイナミックに水の流れや水音を、ダンスでは繊細な水の清らかさを、それぞれが見事に表現されていて、そのあまりの美しさにドキドキしながら舞台袖で拝見しておりました。あの時の感動は今でも忘れられません。

山本 山口さんならではの情感豊かなナレーションのおかげで、お客様のストーリーに対するイメージが膨らみ、能の演技に引き込む助けとなりました。私は今回、アニメファンの方にはアニメを観る感覚で能を観てもらってもいいし、声優さんの声と能の謡を聴き比べてもらうのもいいと思いました。

大西 山口さんに語り部をお願いしたのは、世界発信を考えてのことです。山口さんは、有名なアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」や「ワンピース」などで、その声は世界的に知られています。アニメファンにとっては、赤木リツコ(新世紀エヴァンゲリオンの登場人物)が能の語りをしているのを知っていて、とても興味深く、新鮮な印象を持たれたことでしょう。

佐々木 今回のイベントは、上方文化を世界へ発信しようとインターナショナルスクールの子どもたちや留学生にも協力してもらいました。

バブアゼ 水鳥に扮した子どもたちが登場するシーンでは、会場がほほえましいムードに一変しましたね。バッハの音楽には水鳥とか、かわいいというイメージはないのですが、世界の子どもたちとの共演で日本の文化や精神も違和感なく伝わったと感じました。

山本 とはいえ、子どもたちにすり足で動く意味や行儀よく整列することなど、日本の伝統文化や習慣を理解してもらうにはとても苦労しました。

**アイデンティティがしっかりしていれば、
異なる文化にも合わせられるのです。**

— ギオルギ・バブアゼさん

佐々木 アニメは国内外を問わず若者に大人気ですが、日本の伝統芸能の魅力を世界の若者に伝えるには、どんなことが必要だと思われますか。

山口 歌舞伎や狂言、バレエなどは若いスターが生まれ、幅広い年齢層の女性ファンの方々が増え、そこから若い方々にも広まったように思います。私の同世代の友人もよく歌舞伎やバレエを観に出かけております(笑)。また、バレエは最近、舞台公演を映像化し映画館で観られるようになりました。映画館で予告編を観てバレエを舞台で観てみようと思う方もいらっしゃるようです。伝統芸能が身近に感じられるようになると、若い方々にも興味を持っていただけるのではないかと思います。

バブアゼ 日本の若者は伝統芸能やクラシックのことをあまり知りません。学校や家庭で教えないからでしょう。古典芸能は予備知識なしに理解することは難しいですから、子どもには小さいときから教えることが大事ですね。とはいえ近頃は家族がそれぞれに忙しく、一緒に文化に親しむ機会が少なくなっています。だから自分の国の歴史と伝統文化の結びつきが分からないまま成長し、自国の文化について語ったり、文化は心を豊かにできるものであることが分からなくなっている。これは日本に限ったことではありません。クラシックでは、音楽の歴史について勉強せずに、単に楽器の弾き方やテクニックを学ぶだけでは、豊かで深い表現はできません。自分たちの国の歴史や文化を知ることでも大事です。

佐々木 自国のアイデンティティ、自分の立つ座標軸を持つことが大切なのですね。

バブアゼ その通りです。そういう文化的なアイデンティティをしっかり持っていれば、異なる文化に対しても敬意や理解しようという思いが生まれ、コラボレーションもうまくいきます。芸術の目的は、それを楽しむことで喜びを感じ、人の心を豊かにすることです。能とクラシックでは表現の方法は異なりますが、目的は同じなのです。

朝倉 今回のコラボでは、日本に長く住んでおられ、日本文化にも理解が深いバブアゼさんに指揮をしていただき本当に良かったと思います。人は文化でしかひとつになれません。その文化を育み、発信する取り組みを、民間の方々が組織された関西・大阪21世紀協会が推進されているのは、素晴らしいことだと思います。



「ラデツキー行進曲」で、水鳥の帽子をかぶって観客に手拍子を促すギオルギ・バブアゼさん



村上麻理絵さん



シテ・山本章弘さん(右)と大鼓・山本哲也さん(下左)、小鼓・成田達志さん(下右)

コンテンポラリーダンスと能は共通点が多く、踊っていて、とてもじっくりきました。

— 村上麻理絵さん

村上 私はこれまで、「山姥」や「紅葉狩」などの能の作品をダンスで表現する機会が何度かありました。能は最小限の動きによって観る人に想像してもらう芸能ですので、観客も受け身ではられません。コンテンポラリーダンスも同じで、あえて喜怒哀楽がストレートに分かるような表現をしません。例えば「祈り」を伝えるために、お祈りの仕草をしないのです。だから分かりにくい部分もあるし、観客の想像力に訴えるところが多くなります。その点は能と共通していますね。

山本 能は、始まりと終わりのタイミングがあいまいです。とくにエンディングは音や残像の余韻を感じてもらうため、お客様も拍手するタイミングが分かりにくい。それは、能が演者とお客様で「間(ま)」を共有する芸能だからです。今回のアンコールは「ラデツキ一行進曲」で、しかもお客様の手拍子で最後は舞台と客席が渾然一体となりました。お客様と間を共有するという意味では能に通じるものがあり、とても楽しく演じることができました。

大西 演出にあたっては、山本能楽堂さんや関西フィルさん、村上麻理絵さん、山口由里子さんたちの一流の演技をそのまま伝え、味わってほしいと思いましたから、それを邪魔しないようできるだけ舞台装置をシンプルにしました。音響や照明などのスタッフも経験豊富な一流のアーティストたちですから、私の意図を汲んで、それ以上の素晴らしい仕事をしてくれました。

日本の一流アーティストを世界に発信する仕事だと考えて臨みました。

— 大西 毅さん

佐々木 関西・大阪21世紀協会は、大阪城や周辺施設に世界各国からアーティストやパフォーマーを呼び寄せ、世界に向けた文化発信拠点にする「大阪城フェスティバル構想」を提唱しています。今回の「交響楽 能」をNHKホールで開催したのも、そうした意図からです。

大西 これまでにない新しいコラボレーション公演にお客様の反響も上々で、「また観たい」という声を多くいただきました。その言葉の通り、全国各地で集客できる上質な作品に仕上がったと思います。佐々木さんがおっしゃる通り、私は今回

のイベントを、日本の一流アーティストを世界に発信する仕事だと考えて臨みました。

村上 私は2012年に協会主催で行われた「大阪城サマーフェスティバル」の「オープニング・ガラ」にも出演させていただきました。荘厳な大阪城をバックに大手門前広場で踊る貴重な経験でした。大阪は東京に比べてコンテンポラリーダンスの公演数がとても少なく感じます。だから「大阪城フェスティバル」のように、ここを核として大阪がさまざまな文化の発信拠点になれば素敵だなと思います。大阪人のパワーも大きいですからね。

山口 文化とは国や人の心を豊かにするものだと思いますが、少し前から日本の文化が衰退しているように感じておりました。「大阪城フェスティバル構想」をこの公演で初めて知りましたが、生まれ育った大阪が世界に向けて日本の文化を伝えようとしている、それによって日本を代表する国際都市になろうとしていることをとても嬉しく誇りに思います。「水の輪」に参加させていただき、心より感謝いたします。

朝倉 今回は子どもたちや留学生も一緒に出演するというので、2020年の東京オリンピックに向けた期待感や若い躍動感などが伝わる曲「ホルベルク組曲 前奏曲」(グリーグ)をコンサートのオープニングに選びました。エンディングの『美しく青きドナウ(ヨハン・シュトラウスII世)』も水に関連していますが、オーストリアでは第2の国歌と言われる名曲で、戦争で打ちひしがれたウィーンの人々を勇気づけるために書かれたものです。文化で平和な世界を作るんだというメッセージが込められており、私は、世界に向けて日本の文化を発信するという今回の企画や、文化で社会を活性化させる関西・大阪21世紀協会の取り組みにとってもマッチすると感じました。

佐々木 かつて大阪城の西の丸庭園にステージを製作し、関西フィルハーモニーの首席指揮者、藤岡幸夫さんに指揮をして頂きました。藤岡さんは「世界各地でタクトを振ってきたが、ライトアップで輝く大阪城をバックにしたこんなに素晴らしいステージは世界にもない。どうして大阪はこれを活用しないのか?」と演奏後にお話しされていました。大阪城には多くの観光客が集まります。こうした歴史文化のレガシーである大阪城を舞台に各国アーティストが集う舞台芸術のフェスティバルが開催できたらと思っています。どうもありがとうございました。



山本能楽堂による「水の輪」
スクリーンの映像は旅人が舟に乗った淀川上流(山崎)の風景



留学生たちの協力で世界へ発信

公演にあたり、大阪市の『平成28年度外国人留学生との連携拡大及び起業支援事業』(事業受託：(株)ナジック・アイ・サポート)が実施する交流プログラム*を通じ、留学生ボランティアにも準備段階から公演当日まで協力いただき、国際相互理解を深めるとともに、日本の伝統芸能である能を世界に発信した。また、協会は当イベントをSNSで情報発信した学生の入場料を無料にし、大阪の文化力を広く内外へアピールした。

今回、イベントに参加した留学生に率直な印象を語ってもらった。

*交流プログラム…留学生が、大阪の公的機関または地域団体などと協働・連携して行うボランティア活動。将来の日本での就職などに活かせる経験や知識を得てもらうことが期待されている。

「交響楽能」に参加して

王慧(Wang Hui)さん

中国遼寧省出身

大阪大学外国語学部(日本語専攻)



日本の伝統芸能である「能」と交響楽と一緒に観られると聞いて興味を持ち、参加しました。能は大学の見学旅行で一度観たことがありました。今回、演出の大西さんから「出演してみてはどうですか」と誘われ、こんな機会は滅多にないと思い、水鳥役で出演させていただきました。インターナショナルスクールの子もたちと一緒に出演するのは楽しかったし、何より能楽師の演技を目の前で観られたのはとても貴重な経験になりました。能を観て、演じて、日本の伝統文化の重みを感じましたし、それを一生懸命受け継ごうとしている日本人たちにも感心しました。現在、大学で学ぶかわら、薬局で通訳のアルバイトをしています。日本のことをもっと知り、将来は日本で就職したいと思っています。

孫剣峰(Sun Jianfeng)さん

中国山東省出身

立命館大学理工学部(電気電子工学専攻)



日本で何かボランティア活動をしたかったところ、大学の案内で交響楽能

の募集を知りました。能は観たことがありませんでしたが、面白そうだったので参加することにしました。それをツイッターで発信したところ、日本人の友人から「私ですら観たことがないのに、しかも出演するなんてすごい!」と返事がありました。日本の若者は、チケットを買って能を観に行く人はあまりいないんですね。その友人は今回の舞台を観に来てくれて、舞台の上の私をすぐに見つけてくれました。参加してとても楽しく、能管の音色が感情を表現しているのを間近で聴いて、素晴らしいと思いました。私は日本の先進技術を学んで、将来はそれを活かす仕事に就きたいと思っています。

趙文琳(Zhao Wenlin)さん

中国山東省出身

立命館大学大学院(経営学専攻)



日本の伝統文化に興味はありましたが、能は観たことがありませんでした。だから大学から案内を受けたとき、これは面白そうだと思って参加しました。山本能楽堂で実際に能を観させてもらい、舞台にも上げていただく体験ができて良かったです。開演当日はチケットの受付業務を担当しました。今回の公演についてLINEで発信していましたので、たくさんの留学生の友人が観に来てくれました。日本の若者と同じように、中国の若者も伝統芸能である「京劇」はテレビでは観て知っている、実際に劇場に行つて観る人はあまりいません。観劇料も結構高いんです。また、能には昔の中国起源の話もあることに驚きました。



関西・大阪21世紀協会からの感謝状を受けた留学生の皆さん。左から孫さん、王さん、趙さん。



世界各国からやって来た水鳥たちが川をきれいにする(インターナショナルスクールの子もたちが出演)



インターナショナルスクールの子もたちと一緒に出演した孫剣峰さん(右端)

王慧さん(中央)